



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 サ ン 電 子 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 口 正 則
(コード番号 6736 東証 JASDAQ)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 山 本 泰
経 理 兼 経 営 企 画 担 当
電 話 0587-55-2201

営業外費用及び特別損失の計上並びに業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期において、下記のとおり営業外費用及び特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。また、当該事項及び最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 5 月 13 日に公表しました連結業績予想と本日公開の実績について、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用(持分法による投資損失)の計上について

第3四半期連結累計期間において持分法による投資損失2億14百万円を計上しておりましたが、その後、持分法適用会社が当期純損失を計上したことに伴い、当社持分を乗じた75百万円を持分法による投資損失に計上しました。更に、事業の進捗率が悪く経営状況が悪化したCellomat社(イスラエル国)に係る投資損失96百万円を追加計上しました。この結果、平成29年3月期においては、持分法による投資損失3億86百万円を営業外費用に計上しております。

2. 特別損失(減損損失)の計上について

平成28年3月期に連結子会社化し、のれんが発生したBacsoft社(イスラエル国)について、取り巻く事業環境の変化に加え、重要地域として取り組んでいたペルーにおいて、平成29年3月に大規模な水害が発生し、注力分野として取り組んでいた農業分野についてビジネスの進捗が遅れる見通しとなり、当初策定した計画に対して遅れが発生いたしました。今後の事業計画を見直し、のれんの残存償却期間における回収可能価額を慎重に検討した結果、連結子会社化時に発生したのれんに対して減損損失2億74百万円を計上することとなりました。

Bacsoft社は、IoTの遠隔監視・制御を実現するプラットフォームを中心に、海外も含めビジネス展開しており、当社グループのM2M事業戦略の重要な役割を果たすため、今後も持続的な成長の実現を目指して取り組んでまいります。

3. 平成29年3月期通期連結業績予想値と実績値の差異（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	24,000	700	400	250	11円13銭
実績(B)	24,698	141	△221	△581	△25円88銭
増減額(B-A)	698	△558	△621	△831	—
増減率(%)	2.9	△79.7	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	22,877	408	185	154	6円9銭

4. 修正の理由

利益につきましては、モバイルデータソリューション事業のうち、携帯端末販売店向け(モバイルライフサイクル)について、米国以外の地区で、代替サービスの登場による転送等に関する需要の減少及びDiagnostics等の新サービスが苦戦したことにより販売が低調に推移したこと及び犯罪捜査機関向け(フォレンジック)について、主要市場である米国等では順調に推移したものの、拠点を設立し販売強化に取り組んでいる中国での販売が低調に推移しました。加えてその他事業で、Bacsoft社において長いセールスサイクルや実証実験段階の案件が多く計画に対して売上が未達となったことも重なり、各利益を押し下げる要因となりました。また、上記のとおり当初計画していなかった営業外費用及び特別損失を計上することにより、前回発表予想を下回る結果となりました。

なお、平成29年3月期の配当に関しましては、1株あたり配当金額20.00円を予定しており、配当予想の修正を行う予定はございません。

以上